

目次

- 産業連携の発展に向けて…1
- 活動報告…2
- 会員企業訪問記…8
- 埼玉大学の研究シーズ紹介…10
- 産学官協議会会員一覧…12
- お知らせ…15
- 埼玉大学創立60周年記念 シンポジウム・式典・記念講演会…16

産学連携の発展に向けて



埼玉りそな銀行 法人部長 柴田潤一郎

私が産学連携に関わり始めたのは、まだ、産学連携という言葉が一般的には馴染みがなかった平成12年です。当時はあさひ銀行企画部埼玉企画室長として「埼玉県経済活性化への提言」を取りまとめており、その中で産学連携の必要性を盛り込んでいたからです。そして、実際に銀行としても推進するため、平成13年4月より埼玉りそな産業協力財団で産学連携事業を立ち上げ、初代の産学交流推進室長になりました。当行としての産学連携事業のスタートもここからでした。当時は何もわからない中、埼玉大学地域共同研究センターの本間先生（現工学部准教授）には大変お世話になりました。その後、平成15年の「埼玉りそな銀行」開業に伴い、法人部に新事業支援室を設置し、当行としても前掲の財団とともに推進していくことになりました。

これまでに埼玉大学と当行は様々な形で連携を進めて参りましたが、平成16年には相互協力協定を締結し、一層の強化が図られました。当行は企業との橋渡し役としての機能をはじめとして、資金面では、埼玉大学の「地域イノベーション支援共同研究」事業において採択された事業化を目指す企業向けに「埼玉大学地域イノベーションファンド」を設けています。また、人的な交流としては、毎年継続的にインターンシップとして8月に学生を受け入れ、平成20年度よりは、将来の地域経済を担う人材の育成を目的として「寄付講座」を開設し、講師を派遣して14回の講義を行っています。さらに「ベンチャー講座 in 埼大」を共催するとともに講師の派遣を行うなど、最近では多岐にわたる連携となっています。

ここで、産学連携の発展に向けて、一つだけ触れさせていただくと、企業側の対応によりその成果が大きく左右されるということをお伝えしたいと思います。相談にあたり企業として漠然としたイメージまたは理想（夢）があるだけで、明確なニーズや情報もなく技術開発依頼をするケースが多々あるからです。これでは連携を進めることができたとしても、企業の求めたものと異なる結果となることが多く、仮に満足の行く成果があったとしても、企業として何のノウハウの蓄積にもならず、また、社員の育成にも繋がらない、単なるアウトソーシングとなってしまいます。企業は連携に際し、自社の技術力・情報等を十分把握し、それを適切に伝える準備と説明が必要であることを強調したいと思います。

最後に、埼玉大学と県内企業との連携による埼玉県経済の一層の活性化と地域オープンイノベーションセンター産学官協議会および参加企業の方々の益々のご発展をお祈り申し上げます。

活動報告

埼玉大学地域オープンイノベーションセンター
産学官協議会 副会長

太田 公廣

第1回オープンフォトニクスセミナー報告

平成21年5月20日(水)午後3～5時に、新都心ビジネス交流プラザにて、第1回のオープンフォトニクスセミナーが開催され、埼玉大学理工学研究科 准教授 酒井政道による「フォトニクスの基礎-光波と光子-」のセミナーがあった。受講者は43名であった。年齢層も非常に幅広く、20～30代の若い人達から、もうすでに、相当の年配の方までおり、光学には非常に興味を抱く人が多いこと、また、年齢には無関係であること、光が多く産業に利用されていることなどが理解できる年齢構成であった。

第1回ということで、主催者として(財)埼玉県中小企業振興公社の堀江明常務の開催の挨拶があり、また、埼玉大学地域オープンイノベーションセンター長の太田公廣教授からも、光学の重要性として朝永振一郎先生らとの会話例などが紹介された。その後、今回のセミナーのコーディネータをして頂いた埼玉大学理工学研究科の鎌田憲彦教授から、この8回のセミナーの目的と構成、今後の方針について、紹介があった。

酒井先生の講座は、光学の基礎的知識についてであった。光が「波」の性質と「粒子」の性質の両方があるということから始まり、波の性質では位相があること、その幾何学的な取扱い方法、また、粒子としての取扱いでは、その統計的方法から黒体輻射の話、さらには、量子情報通信にまで及んで話をされた。

セミナーを受講した方々の素養は、受講生の年齢構成からも分かるように相当にばらついていたと考えられる。従って、産業に応用するための光学の基礎知識としては、かなり難しいと感じた方もいたかも知れない。一方、あまりにも易しいと感じた方もいたと思われる。さらに、今後7回を受講する基礎知識としては必要最小限であったと思われるので、粘り強く続けていただくことが今後役に立つと考えられる。

なお、「オープンフォトニクスセミナー2009」の日程や内容、申込み先等は、『お知らせ(15ページ)』に詳細を示す。



埼玉大学 酒井政道准教授によるセミナーの様子

産学交流協議会第10回定期総会報告

去る6月1日（月）に、大宮ソニックシティビル4F市民ホールにて埼玉大学地域オープンイノベーションセンター産学交流協議会の総会が下記のように午後2時から開催された。

来賓の挨拶では、はじめに、経済産業省 関東経済産業局局長 塚本修氏の代理出席で地域経済部長 吉澤雅隆氏より、非常に熱のこもった挨拶が約30分程度あり、続いて、埼玉県産業労働部長 浅賀康夫氏の代理出席で6月1日付けで就任した新産業育成課長の竹永祥久氏から、また、さいたま市経済局長 池田誠氏の代理出席で経済部長の長島光正氏から挨拶があった。

その後、栗原隆会長を議長として議案の審議に入り、全ての議案は満場一致で可決された。会員の出席者は39名、委任状は115名であり、議決有効数は合計154名であった。全会員166名の3分1以上を満たしていた。今回の総会では以下の主な点が議決された。

- (1) 20年度事業報告案、決算案、21年度事業計画、予算案では、
 - ・21年度の事業計画に、新たに、企業技術者向けに「オープンフォトニクスセミナー2009」を8回行い、その予算が計上された。現在、第2回目のセミナーには、47名の申し込みがある。
- (2) 規約改正の主な点は、
 - ・これまでの「産学交流協議会」の名称を「産学官協議会」とした。
 - ・副会長2名を3名にし、（株）愛工舎製作所の牛窪啓詞社長が副会長に推薦承認された。
 - ・運営委員会の委員に、小島化学薬品（株）の佃毅会長が推薦承認された。当日は橋本常務が参加され、挨拶された。

総会の後半には、「ものづくり高度基盤技術研究会」の活動報告が堀尾健一郎研究会長よりあった。また、新たな「福祉医療・スポーツ支援装置等の開発研究会」の紹介、および、埼玉大学地域オープンイノベーションセンターの最近の活動内容が太田公廣副会長より報告され、総会は盛会のうちに終了した。

第2部の講演会では下記にあるように埼玉大学学長上井喜彦氏から「経済成長のパラダイム・シフトを考える」との内容にて、お話があった。

上井先生は、今回の100年に1度あるかないかの不況の原因となった米国のリーマンブラザーズの破綻の遠因となったサブプライムローンの仕組みの解き明かしに始まり、世界の経済のパラダイム・シフトが生じ始めたこと、さらに日本の経済構造、産業構造にもパラダイム・シフトが必要になってきたこと、また、大学のパラダイム・シフト、産学官連携のパラダイム・シフトが必要になってきたことなどについて、分かりやすい詳細なお話をされた。埼玉大学においても、産学官連携において流れを変えていくことが求められてきており、センターの在り方も変更してきたのは、このパラダイム・シフトに起因しているとお話であった。世界中で、社会の仕組み、会社等の構造・システム変更、貿易や商業、産業構造など、ありとあらゆるところで、これまでの価値概念の変更が生じてきており、これまでのパラダイムが大きく変更・シフトしてきていることが実感されるご講演であり、将来の社会構造等の在り方において非常に考えさせられる内容であった。

第3部の懇親会が14階の天空のジパングであり、50名程度の参加であった。川橋正昭副学長・理事の挨拶と乾杯にはじまり、和気あいあいと談笑された。途中で、客員教授の紹介、参加していた大学の教授の紹介、コーディネータの紹介などがあり、最後に、新たに副会長に就任された(株)愛工舎製作所の牛窪啓詞社長が締めを行って散会した。

以下には、総会当日の次第を示す。

【第1部】 定期総会 14:00～15:30

次第

- I. (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 来賓祝辞 関東経済産業局局長 塚本 修 氏
埼玉県産業労働部長 浅賀 康夫 氏
さいたま市経済局長 池田 誠 氏
- (4) 議事
第1号議案 平成20年度事業報告案及び決算案について
第2号議案 平成21年度事業計画案及び予算案について
第3号議案 規約改正案について
第4号議案 運営委員の追加及び交代案について
- (5) その他
- (6) 閉会

II. 研究会および産学連携実績等紹介

<休憩 15:30～15:40>

【第2部】 講演会「経済成長のパラダイム・シフトを考える」15:40～16:40

講演者 埼玉大学学長 上井 喜彦

【第3部】 懇親会 17:00～18:00



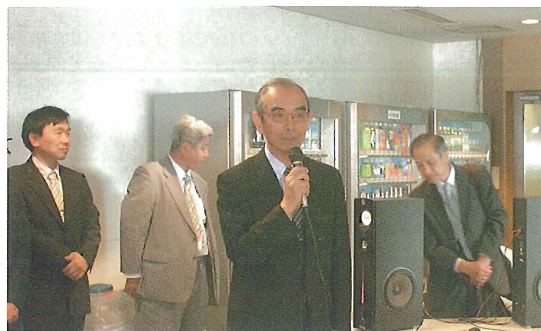
来賓の挨拶に立つ関東経済産業局地域経済部長の吉澤雅隆氏



栗原隆会長を議長として全議案は満場一致で可決した

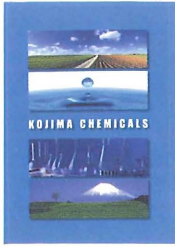


懇親会で歓談する上井喜彦学長



懇親会で乾杯の挨拶を述べる川橋正昭副学長・理事

会員企業訪問記26



小島化学薬品株式会社

～最先端の技術で貴金属に夢を～

1. はじめに

今回訪問したのは、明治42年から創業し、今年で100周年を迎えるという、とても歴史のある小島化学薬品株式会社です。当社は試薬製造に端を発し、すぐれた製造技術を生かして、今日まで貴金属工業製品などの提供をはじめ、各種のスクラップや廃液から貴金属の回収・精製を行い、資源のリサイクルを行っています。また回収された貴金属から、めっき薬品、添加剤、貴金属触媒の開発など、幅広い分野へ活躍の場を広げています。

2. 事業内容

当社は、「より良く、より早く、より安く」をモットーに、技術力の向上や生産力の強化に努めており、お客様の満足いく製品の開発を行うとともに、周辺の自然環境や生活環境などの環境保全を第一に考え、企業の社会的責任を果たすことを目指しています。

事業内容としては、下図のように中核を6つおき、それらを線でつなぎ、環状の輪としています。これらの事業を展開する中で、特に当社の強みとなっているものは、以下の3つです。

まず1つ目は、ISO9001のもと品質管理体制の確立と高度に完備された設備です。これらにより、多種類の高純度貴金属薬品や貴金属めっき薬品を製造することが可能になります。

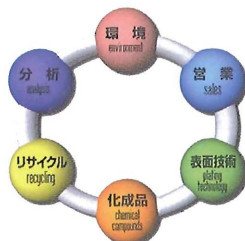
2つ目は高い分析能力です。新製品の研究開発や出来上がった製品の品質チェックなどには高い分析能力が必要となります。確かな分析能力によるチェックを行った製品を提供することにより、お客様から高い信頼が得られています。

3つ目がリサイクルの高回収率です。当社は、製品コストの低減、経済効果の上昇、環境保全への貢献といった目的から電子部品スクラップ、プリント基板等から貴金属のリサイクルを行っています。

3. 工場見学

当社は電子部品スクラップやプリント基板のリサイクル、化成品の研究開発、分析などを行っていました。若い従業員の方が多く、元気よく挨拶してくれました。分析や品質管理を行う部署には、多くの高精度の設備が備えられていました。優れた研究開発を創出する環境づくりに力を注いでいると感じました。また、敷地内には現在工事中の場所があり、そこにはバイオ技術を活用した廃液処理施設を建設する予定だそうです。事業内容が化学であることから、法規制への対応もさることながら、自らの意識により、環境に配慮することを心がけています。

限りある資源を次世代のために・・・
最先端の技術で貴金属に夢を与え続けます。



小島化学薬品株式会社の事業内容

4 社長のお話

現在の社長は2005年に就任されたのですが、就任された当初から常に大事にしているものは、「人」だそうです。会社は「人」によって支えられ、「人」によって成長し、「人」によってつぶれもする。そういう考えから自らの考えを社員全員に伝えるために、就任当初から2年間毎日朝、始業30分前に会社に来て、課長以上の役職の人と会議をし、社員全員に自分の考えを伝えてもらうように努力してきたそうです。また、社員の方々には失敗を恐れず、自由に研究・開発を行ってもらい、たとえ失敗しても、屈することなくはいあがっていくようにしっかりと手助けをしたいと考えています。社員一人一人の成長が会社の成長・発展につながるということでした。

また、私たちが社長、常務に取材を行った会議室には3つの「る」（「良い事はすぐやる」「だめな（悪い）事はすぐやめる」「いつもと違う時はすぐ報告する」）、意識に関する5C（Communication、Consciousness、Customer、Crisis、Cost）などの標語が貼ってあり、常に従業員に対する意識付けを心がけている姿勢がうかがえました。

このような考えをもっているトップの方がいるので社員の方々の意識が高まり、さらなる技術革新ができるのだと感じました。



代表取締役社長 五木田 春夫氏

企業名：小島化学薬品株式会社
本社所在地：350-1335 埼玉県狭山市柏原337-26
連絡先：TEL 04-2953-9231 FAX 04-2953-9237
設立：昭和36年7月11日（創業100周年）
資本金：8000万円
従業員数：141名
代表者：代表取締役社長 五木田 春夫
業務内容：貴金属類の回収・精製
めっき薬品、添加剤、貴金属触媒の開発 等

対応者：代表取締役社長 五木田 春夫 氏
常務取締役 橋本 和俊 氏
執行役員営業本部営業部 岩佐 浩隆 氏
訪問者：大学院理工学研究科2年 巖倉 和寛
産学官連携推進副部門長 木下 裕美
訪問日：平成21年6月9日



事務所風景

財団法人埼玉りそな産業協力財団

～よりよい埼玉の未来を～

1. はじめに

今回訪問させていただいた埼玉りそな産業協力財団は、埼玉銀行（当時）が創立20周年にあたって、埼玉県、埼玉県内の市町村、取引先その他各方面への愛顧や支援に応える記念事業として埼玉銀行の寄付金で昭和38年に設立されました。

平成14年に埼玉りそな銀行創業に合わせて、「埼玉りそな産業協力財団」と改称し、より一層埼玉県に特化したシンクタンクとして、地元の産業振興に役立つ質の高い情報を、企業や行政などにタイムリーに、かつ適切に情報提供を行っています。当財団は公益法人として「地域の産業経済の健全な発展に寄与する」という使命感を持って日々活動しています。現在、顧問に埼玉大学学長が就いており、埼玉大学ともとても密接な関係があります。

2. 事業内容

当財団は、①経済調査事業、②地域研究事業、③産学交流推進事業、④講演会の開催、⑤経済情報誌の企画編集、を主な事業として展開しています。

①経済調査事業

地域の産業経済に関する調査・研究として、企業経営動向調査や新規学卒者採用状況などのアンケート調査、埼玉県の経済見通しやボーナス予測などの予測調査、産業天気図の作成や各種経済波及効果分析などを実施しています。新聞などの地域経済関連記事においては、当財団の調査結果がしばしば掲載されています。また、最近ではNHKのドラマの舞台となった川越の経済波及効果の研究も行いました。

②地域研究事業

埼玉県、県内市町村、関連機関などからの受託調査を中心とした地域研究事業を行っています。これまで、各地公体からの総合計画、PFI、産業活性化策などの調査・分析受託や、埼玉県からの創業ベンチャー支援センターのアドバイザーチーム設置業務などの受託実績があります。

③産学交流推進事業

企業と大学・研究機関との連携を図るため、企業に対し大学との共同研究や技術相談などのコーディネート、セミナーの企画・開催、大学の研究内容や特許の情報提供を主な活動内容としています。具体的な活動の1つとして、当財団の担当者が県内の大学のコーディネータとともに企業訪問を行うなど、当財団ならではの、機動力のある活動を行っています。



理事長 利根 忠博氏

④講演会の開催

中堅中小企業向けに、さらなる経営に対する見地を深めてもらうため、有識者や企業経営者による経営戦略などをテーマとした講演会を定期開催しています。

⑤経済情報誌の企画編集

月刊として「埼玉りそな経済情報」の企画編集・発行、年刊として「日本の中の埼玉」の発行を行っています。



県内の調査・研究のニュースリリース



産学連携セミナーのリーフレット



月刊「埼玉りそな経済情報」

3. 埼玉大学への期待

当財団の依田英男副理事長は、埼玉大学に対し、地域と密接な関係を築き、より身近な存在として地域経済産業の発展に尽力してもらいたいと大きな期待を寄せています。本学の教員にも、研究面だけでなく、産業経済の発展をリードするため、地域の産業界に対しても目を向けてほしいとのことでした。地域から頼りにしてもらえる存在となるよう、当財団を見習い、埼玉大学もさらなる地域との信頼関係の構築を図っていく必要があると感じました。

財 団 名：埼玉りそな産業協力財団
本社所在地：さいたま市浦和区高砂2-9-15
連 絡 先：TEL 048-824-1475 FAX 048-824-7821
設 立：昭和38年11月1日
基 金：3億円
理 事 長：利根 忠博
主 務 官 庁：埼玉県
役 員：理事 10名 評議員 19名
監 事 2名 顧 問 1名
主 な 業 務 内 容：経済調査、地域研究、産学交流推進、講演会の開催

対 応 者：副理事長 依田 英男 氏
訪 問 者：大学院理工学研究科2年 巖倉 和寛
産学官連携推進部門長 木下 裕美
訪 問 日：平成21年6月8日

埼玉大学の研究シーズ紹介

今回は、埼玉県経営者協会（会長 利根忠博、本協議会賛助会員）会報「埼経協ニュース」の記事「埼玉大学研究者との出会いの広場～シリーズ第51回」を転載いたします。

●ヒト、車、モノなどの移動体の動きのモニタリングとそのデータベース化に関する研究●

大学院理工学研究科 数理電子情報部門 大沢 裕 教授

当研究室では、情報科学に基礎を置き、時空間情報データベース、高度交通システム、地理情報システムなど、実世界自身やその上での動きのデータベース化に関する研究を行っています。

移動体の動きのモニタリングの中で、省エネや環境問題、快適性の観点から、車の動きを捉えて、効率良い移動計画を立てる技術がITS分野で活発に研究されています。そのためにVICSが稼動し、更に精緻な動きの把握のためにプローブカーなどの実証実験も行われています。

当研究室では、個々の車の動きをデータマイニングすることにより、「よく通るルート」を把握し、個々の車の動きを従来のVICSやプローブカーよりも精緻に実時間モニタリングできる技術の研究を行っています。この研究の成果により、例えば日常生活の中での車での移動では、目的地を設定しなくても、過去の行動パターンから行き先を予測し、適切な経路を教えてくれるようなカーナビが実現できると考えています。更に、この技術は物流における車や、タクシーなどの位置を正確に予測し、モノの輸送や配車などを効率化でき、また携帯電話への適用でヒトの動きの把握にも役立つものと考えております。

一方、道路や建物なども、新しいものが建設され、古いものが壊され、全体的には常に動いています。そのような地物の動きを、時間軸を含めてデータベース化しておくことにより、過去から現

在までの世界で様々な地理演算や検索ができるような時空間情報システム（STIMS）を長年開発してきました。このシステムは企業との共同研究により実用化され、多数の自治体などで実際に使われてきました。図は当研究室で開発されたSTIMSの画面例を示しています。

当研究室は、情報科学を背景に現実世界のデータベース化に関する研究をしており、プログラムやシステムを独自に開発できる力を有している点（

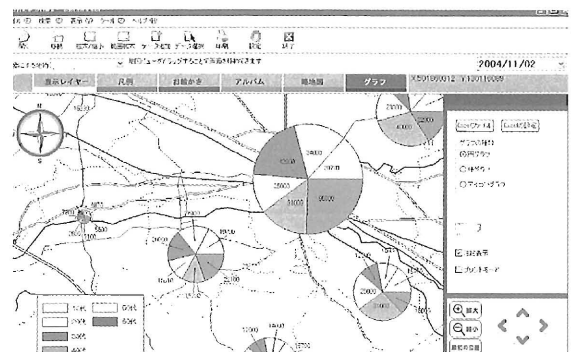


図 当研究室で開発した地理情報システムソフトウェアの1例

PROFILE



大沢 裕
(おおさわ ゆたか)

1978年 信州大学大学院理工学研究科電子工学専攻修了
1982年 東京大学生産技術研究所助手
1989年 埼玉大学工学部情報工学科助手
1990年 埼玉大学工学部情報工学科助教授
1990年～1991年 米国カーネギーメロン大学客員研究員
1998年 埼玉大学工学部情報システム工学科教授
現在 埼玉大学大学院理工学研究科教授

■産業への展開

- 1 現実世界のデータベース化に関する開発
- 2 高度交通システムと移動体の動きに関する研究・開発

●磁性薄膜の電子デバイス応用●

埼玉大学大学院理工学研究科 物質科学部門 柿崎 浩一 准教授

電子機器を構成する電子デバイスには様々なものがありますが、その中でも磁性材料を使ったデバイスの研究・開発を行っています。私たちが普段目にする“磁性材料”と言えば“永久磁石”が一般的ですが、これ以外にも磁性材料には様々な性質を持つものが存在します。これらを適材適所に使用することで各種の電子デバイスが作られてきました。近年ではノートパソコンや携帯電話、携帯音楽プレーヤーなどを見てもわかるように、市場からの要求は小型・高性能かつ省エネルギー化が求められております。これを実現するためには電子機器に使用される電子デバイスの小型化は避けられません。そこで重要になるのが磁性材料を薄膜化するプロセス技術です。当研究室では薄膜作製法としてスパッタリング法を採用しています。この方法は真空中において薄膜にしたい物質(ターゲット)にプラズマ化したアルゴンイオンを高速で衝突させることで原子を叩き出し、基板上に付着させて薄膜を得る方法です。スパッタリング法は産業界でも広く用いられており、例えば、パソコンに搭載され、膨大なデジタルデータを蓄積することのできるハードディスクドライブ(HDD)などはこの方法で製造されています。HDDにおいては、私たちの目に見えないような微小磁石をディスク上にたくさん並べることで情報を記録しています。その磁石のサイズは数十nmのオーダーです。従って、HDDのディスクに使わ

れる磁性材料は必然的に薄膜にならざるを得ないのですが、薄くすると磁力が弱まってしまうという問題が生じます。そこで薄膜の構造をナノスケールでコントロールし、薄くても強い磁力を保つことのできる磁性薄膜を実現しようと研究を行っています。また、プラズマ重合反応を応用し、スパッタリング中に有機物の原料ガスを導入することでポリマーと金属の複合材料の開発も行っています。この複合材料はポリマーが“つなぎ”の役割を果たすことで柔軟性に富み、小型電子機器のフレキシブル基板から輻射されるノイズを抑制したり、RFID(ICタグ)のノイズ低減、感度向上を目的とした電磁波吸収シートとしての応用も期待できます。

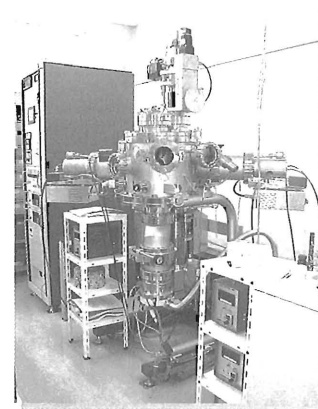


図 対向ターゲット式RFマグネトロンスパッタリング装置

PROFILE



柿崎 浩一
(かきざき こういち)

1992年3月 埼玉大学工学部電子工学科卒業
1994年3月 埼玉大学大学院理工学研究科博士前期課程
電子工学専攻修了
1994年7月 埼玉大学工学部機能材料工学科助手
2002年4月 埼玉大学工学部機能材料工学科助教授
2006年4月 埼玉大学大学院理工学研究科物質科学部門助教授
2007年4月 埼玉大学大学院理工学研究科物質科学部門准教授
現在に至る。博士(学術)
(埼玉大学、2001年)

■産業への展開

薄膜化プロセス、金属-ポリマー複合薄膜の作製、磁性薄膜の電子デバイスへの応用、磁性材料の特性評価など

お知らせ

埼玉大学創立60周年記念事業プログラム

開催日	催し物
H21. 3.28	連続市民講座「埼玉の教育と未来—教育に希望を託す社会を—」
H21. 4.25	連続市民講座「古代の埼玉と東アジア—古墳時代の対外交流—」
H21. 5.23	連続市民講座「彩の国はどこへ?—道州制下の地方自治—」
H21. 6.27	連続市民講座「埼玉の環境を考えると—未来にどのような環境を残すか—」
H21. 7. 8	コンサート「音楽のつばさ—さいたま市との共催—」 於：コムナール（浦和パルコ）
H21. 7.25	連続市民講座「埼玉のものづくりと人づくり—熟練技能の伝承と創造型人材の育成—」
H21. 8.29	連続市民講座「子育て支援の現在—埼玉から未来の子どもたちへ—」
H21. 9.19	記念シンポジウム「脳科学の現在と課題（仮）」 於：ラフレさいたま
H21. 9.25	記念式典・記念講演会「クリーンルームから地球環境まで」 於：浦和ロイヤルパインズホテル
H21. 9.26	連続市民講座「埼玉の新しいまちづくりを考える—く結い>をキーワードに—」
H21.10.24	連続市民講座「ゲノム研究の現在—埼玉から世界へ—」
H21.10.24~11. 7	歴史で綴る埼玉大学企画展
H21.11. 1~11. 3	創立60周年記念フェスティバル （第60回むつめ祭と同日開催）
H21.11.15	コンサート「第6回埼玉大学フレッシュコンサート—埼玉りそな銀行との共催—」 於：埼玉りそな銀行本店講堂
H21.11.28	連続市民講座「戸田ボートコースの水質浄化作戦—淡水産真珠貝を利用して—」
H21.12.12	コンサート「第10回音楽の贈りもの」 於：さいたま芸術劇場
H21.12.19	連続市民講座「埼玉の広報戦略—21世紀都市のブランド力と戦略広報—」

平成21年度 埼玉大学関連・その他の企画

開催日	催し物
H21. 4. 1	学年開始
H21. 4. 7	大学院入学式
H21. 4. 8	学部入学式・オリエンテーション及びTOEIC試験
H21. 4. 9~ 4.10	新入生ガイダンス
H21. 4.13~ 7.29	前期授業
H21. 7.23~ 8. 6	前期補講・試験期間
H21. 8. 7~ 9.30	夏季休業
H21.10. 1~12.22	後期授業Ⅰ
H21.11. 2~11. 4	むつめ祭休講
H21.12.23~ 1. 7	冬期休業
H22. 1. 8~ 2. 8	後期授業Ⅱ
H22. 1.28~ 2.16	後期補講・試験期間
H22. 2.13	TOEIC試験
H22. 3.24	大学院終了式（予定）
H22. 3.25	学部卒業式（予定）

平成21年度 産学官協議会関連企画

開催日	催し物
H21. 4.20	第1回運営委員会
H21. 6. 1	第2回運営委員会
	第10回定期総会
	第1回交流会
H21.10.初旬	第1回ベンチャー講座in埼玉大
H21.10.初旬	第6回テクノ・カフェ
H21.11.初旬	第2回ベンチャー講座in埼玉大
H21.11.下旬	第2回交流会
H21.12月中旬	第3回ベンチャー講座in埼玉大
H22. 1月中旬	第4回ベンチャー講座in埼玉大
H22. 2月中旬	第7回テクノ・カフェ
H22. 2.中旬	ビジネスアリーナ2009
H22. 2.中旬	第5回ベンチャー講座in埼玉大
H22. 3月中旬	第3回運営委員会

オープンフォトニクスセミナー2009

埼玉大学と（財）埼玉県中小企業振興公社が連携して、地域の企業技術者の方々向けに光学（オプト）、光技術に関するセミナーを開催しています。

第1回	5月20日（水）	新都心ビジネス交流プラザ 「フォトニクスの基礎・光波と光子」 埼玉大学理工学研究科 准教授 酒井 政道
第2回	6月23日（火）	新都心ビジネス交流プラザ 「光源と測定技術」 埼玉大学理工学研究科 教授 谷 治 環
第3回	7月17日（金）	埼玉大学 埼玉大学の研究室見学、懇談会
第4回	8月24日（月）	新都心ビジネスプラザ 「光学材料の物理的基礎」 埼玉大学理工学研究科 教授 矢口 裕之
第5回	9月18日（金）	新都心ビジネスプラザ 「LED光源の特性と応用」 埼玉大学理工学研究科 教授 高橋 寺郎
第6回	（10月）	新都心ビジネスプラザ 「有機薄膜光・化学センサ」 埼玉大学理工学研究科 准教授 内田 秀和
第7回	（11月）	新都心ビジネスプラザ 「光学研磨の基礎と応用」 埼玉大学理工学研究科 准教授 池野 順一
第8回	（12月）	新都心ビジネスプラザ 「レーザー干渉計測」・懇親会 埼玉県環境科学国際センター 研究所長 門野 博史

■受講料 全8回分 3,000円（資料等代）
※指定口座に前納していただきます。受講料は、キャンセル及び欠席の場合にもお返しできませんのでご了承ください。第3回からの参加でも受講料は3,000円です。

■申込・問い合わせ先
（財）埼玉県中小企業振興公社 産学連携支援部 プロジェクト推進グループ
電話048-857-3901 FAX048-857-3921
URL <http://www.saitama-j.or.jp/opto/> E-mail opto@saitama-j.or.jp

発行：埼玉大学地域オープンイノベーションセンター産学官協議会

〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学総合研究機構地域オープンイノベーションセンター内
TEL 048(858)9354 / FAX 048(858)9419 / E-MAIL tiiki@mls.saitama-u.ac.jp URL <http://www.saitama-u.ac.jp/coic/contents/interchange.html>

■ 創立60周年記念シンポジウム (国立大学協会との共催)

日 時 平成21年9月19日 (土) 14:00~16:00
 テーマ 「脳科学の現在と課題」 (仮)

パネリスト 理化学研究所脳科学総合研究センター センター長 利根川 進 (1987年ノーベル生理学・医学賞受賞)
 理化学研究所脳科学総合研究センター 副センター長 田中 啓治
 理化学研究所脳科学総合研究センター 研究員 中谷 裕教
 埼玉大学大学院理工学研究科 教授 綿貫 啓一
 埼玉大学脳科学融合研究センター センター長・教授 中井 淳一

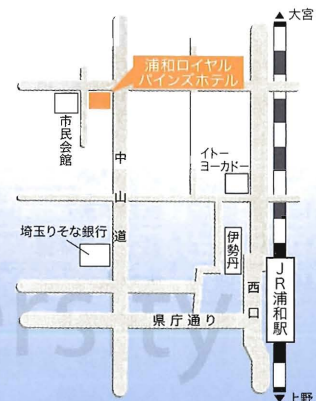
会場 ラフレさいたま 桜ホール
 さいたま市中央区新都心3-2 TEL 048-601-1111
 定員 400名
 アクセス JRさいたま新都心駅下車 徒歩7分
 JR北与野駅下車 徒歩10分



■ 創立60周年記念式典・記念講演会

日 時 平成21年9月25日 (金)
 記念講演会 15:00~16:30
 テーマ 「クリーンルームから地球環境まで」
 講師 埼玉大学大学院理工学研究科教授・環境科学研究センター
 センター長 坂本和彦

定員 400名
 式典 17:00~17:40
 レセプション 18:00~19:30
 会場 浦和ロイヤルパインズホテル 4F
 さいたま市浦和区仲町2-5-1 TEL 048-827-1111
 アクセス JR浦和駅下車 西口より徒歩7分



記念シンポジウム及び記念講演会の定員には
 埼玉大学学生・関係者を含みます。
 詳細はあらためてHPなどでお知らせします。

■問い合わせ先
 埼玉大学総務課総務係
 TEL 048-858-3005 E-mail soumu@gr.saitama-u.ac.jp

